

学校教育目標	ふるさとを愛し 夢に向かって主体的に学び 行動できる児童の育成
育成を目指す資質・能力	○「他者の思いを受け止め、自分の考えを自分の言葉で語る」コミュニケーション能力 ○学校や地域に誇りと愛着をもって行動できる力

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○各教科とも基礎・基本の定着については、おおむね良好である。 ○資料から必要な情報を読み取ったり、資料をもとに考察したりする等、活用力に課題がある。 ○各教科とも問題を読み取る力、自分の考えを表現する力が弱い。 ○書く力については、目的に応じて文章の構成を考えたり、相手に応じて書き表し方を工夫したりする等、重点的・継続的に育成していく必要がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ○児童アンケート(1学期)で「家で毎日決められた時間の学習をしている」は、学校全体では82%であったが、学年差が大きかった。 ○第6学年では、「平日、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしているか」で「1時間より少ない」と回答した児童が65%、第5学年では、「学校の授業以外で、週に何日くらい勉強しているか」で「2~3日」「ほとんどしない」と回答した児童が40%弱いることから、家庭学習の習慣化に課題が見られる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ○児童アンケート(1学期)の結果を見ると、「授業が楽しい」が89%、「授業がよくわかる」が89%と達成指標(90%)におおむね達している。ただ、「授業で進んで自分の考えを発表する」は64%と達成指標(80%)を大きく下回っており、学年が上がるにつれ、割合が低くなっている。 ○単元末テストの平均正答率で、算数においては、1年生以外の各学年に6割未満の児童が5%以上いる。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○教職員アンケート(1学期)の結果を見ると、「子どもは授業が楽しそう」「子どもは学習内容を理解している」は100%に達しているが、児童とは若干の差がある。また、「子どもは授業で進んで自分の考えを発表している」は91%に達しているが、児童とは大きな差がある。 ○「書く」活動については、各教科において取組を進めているが、十分な成果を上げるまでには至っていない。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○毎週、月・火曜日に国語、水曜日に算数のスキルタイム(朝の活動:15分間)を実施し、より確実な実施及び時間確保のために授業時数にカウントしている。 ○保護者による学習サポーターを導入し、授業の見守り(授業参観)や実習等の補助を実施している。 ○3・4年生の希望者を対象とした、地域の教職員経験者等による「のつはる塾」を年間20回程度実施している。	

学力に関する達成指標

○単元テストの平均正答率8割以上の児童70%、6割未満の児童5% ○「授業が楽しい・授業がよくわかる」と回答する児童90% ○「授業で進んで自分の考えを発表する」と回答する児童90% ○「家庭学習ができている」と回答する保護者85%

